

# 平成26年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、21世紀の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。<br>2 地域に信頼される進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。 |
|--------|--|

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割以下)   |

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次代を担う女性を育成する。<br>2 SSHやリーダー育成・進学指導重点推進校の取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。<br>3 きめ細かな進路指導や学習指導を充実し、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。<br>4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。 |
|------|---|

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 出席者 | 学校関係者 6名<br>生徒 3名 |
|-----|-------------------|

| 学校自己評価 |  |  |  |   | 平成26年度目標   |    | 平成26年度評価 (1月29日現在)  |  |
|--------|--|--|--|---|--|----|---|--|
| 割合     | 現状と課題  | 評価項目   | 具体的な方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成 | 次年度の課題と改善策  |  |
| 1      | ・豊かな人間性や社会性を育む教育を展開し、社会に貢献できる人間としての高い志や使命感を育成する必要がある。<br>・生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、国際性を身に付けさせる必要がある。                 | ①高い志を持った生徒の育成<br>②自主自律の育成<br>③生徒のコミュニケーション能力の向上<br>④海外交流の充実                          | ①オリエンテーション合宿やキャリア教育をより充実したものとする。<br>②委員会活動や学校行事、部活動を生徒が主体的に行えるようにする。<br>③英語プレゼン講座の実施やデパート・小論文指導の充実を図る。<br>④ヨーロッパの姉妹校との海外交流を積極的に推進する。   | ①生徒が志を高めるための意欲と向上心を持つことができたか。<br>②生徒が主体的に委員会活動や学校行事、部活動を行うことができたか。<br>③生徒がコミュニケーション能力を身に付けることができたか。<br>④生徒が国際的な感覚を身に付けることができたか。                                 | ①オリエンテーション合宿では93%の生徒が「有意義だった」、キャリア教育では97%の生徒が「意識が高まった」と回答した。<br>②部活動では、県大会上位入賞や関東大会・全国大会への出場・出展数が増加した。委員会活動では、様々な行事や挨拶運動などで、生徒が主体的に活動した。<br>③英語プレゼン講座・年5回、1年デパート・年6回、2年小論文・年5回実施した。<br>④事前研修を15回行い、2週間のNZ派遣事業に20名の生徒が参加。NZ姉妹校から生徒19名が来熊し、授業・ホームステイ体験等で熊女生と交流。文化・習慣の違いやコミュニケーション能力の必要性等を学び、国際性育成の一助とした。   | A  | ①オリエンテーション合宿は、校内における初期指導を充実と行事の精選という観点から次年度は実施しない。<br>④予算が厳しい状況にあるので、派遣については、教員旅費の県への申請や生徒研修費などについて改善を要する。  |  |
| 2      | ・生徒の学力向上のための研究、対策を組織的に進めていく必要がある。<br>・SSH指定3年目として、過去2年間の取組を踏まえ、活動の充実を図る必要がある。<br>・リーダー育成・進学指導重点推進事業を円滑に進めていく必要がある。 | ①教科指導力の向上<br>②生徒の主体的学習力の向上<br>③論理的思考力や表現力等の向上<br>④文部科学省による中間評価<br>⑤リーダー育成事業を通じた生徒の変容 | ①授業研究会や生徒による授業評価を行う。<br>①各教科で模試やセンター試験の分析・報告を行い、実態把握とその対策に努める。<br>②学力向上対策委員会と教科・学年とが連携し家庭学習の改善を進める。<br>③大学・研究機関や他のSSH校との連携を深め、生徒交流会等を実施する。<br>④これまでのSSH取組の総括を行う。<br>⑤入試分析研修会や北部5校英語研究会等、効果的な取組を実施する。 | ①生徒の授業満足度が高いか。<br>①教科として分析結果を授業に活かされたか。<br>②生徒の家庭学習の時間・内容がどのように変容したか。<br>③アンケートやJST意識調査等の結果より、生徒がどのように変容したか。<br>④中間評価で「A」を得られるか。<br>⑤アンケート等の結果より、生徒がどのように変容したか。 | ①北部5校教科力向上研修会・進路講演会を実施。授業アンケートの結果、「説明がわかりやすい」と回答した生徒は56%(昨年57%)。<br>①各教科・学年による模試の結果分析を行い、授業改善の一助とした。<br>②生徒の1日の家庭学習時間平均1年1.5時間、2年1.6時間(昨年度1年1.7・2年1.6時間)。1年について国・数・英の課題量の調査を行った。<br>③④北関東SSH女子高校6校連携事業をスタートさせ、お茶大・東大と交流会、発表会を実施。意識調査結果より、生徒のインシテナー・思考力等については、良好に推移。中間評価は「D」。<br>⑤県主催の授業力向上研修会に教員7名、リーダー育成事業等に生徒24名が参加。他校生との交流を含め、生徒の意識が高まった。英語研究会を年6回実施。 | A  | ①授業力向上のための取組を分掌・教科・委員会等で検討する。<br>②生徒が主体的に学習に取り組める環境づくりを構築する。<br>③中間評価は厳しい結果となったが、今後も全校で取り組む熊女SSHの実現に向け、課題研究や6校連携事業の深化、学校設定科目の設置などについて検討する。SSH1期目がH28で終了するので、2期目の申請について検討する。 |  |
| 3      | ・進路指導計画に基づき、分掌・学年・委員会等が組織的に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路実現を図る必要がある。  | ①組織的な進路指導の充実<br>②第一志望の実現と進学実績の向上<br>③個に応じた進路指導の充実                                    | ①進路研修会や新旧3学年会議等を実施するとともに、「進路室から」等の発行により教職員の情報共有を推進する。<br>①②課業日や長期休業中の補習指導を充実させ、計画的に実施する。<br>②志望校検討会や入試分析校内研修会を実施する。<br>③進路情報の提供や進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい面談を定期的に行う。  | ①進路指導目標の実現に向け十分な取組ができたか。<br>①②生徒の進路実現に寄与する進学補習体制が整ったか。<br>②生徒第一志望の進路を実現できたか。<br>②進学実績目標値(現役) 国公立大学70名・早慶上理大等40名・G-MARCH100名以上<br>③適切で効果的な面談が実施できたか。             | ①③「進路室から」63号まで発行(3/23現在)。教員の情報共有と生徒の進路意識の啓発を行った。全校体制で小論文・模擬面接指導を実施。<br>①②学力向上委員会が主導し、夏期進学補習3年34講座、1・2年22講座を実施。<br>②進路部・3学年・教科が連携して入試分析や志望校検討会を実施。<br>②センター試験受験者数342名(昨年334名)、合格者数(現役)は、国公立大学36名・早慶上理15名・G-MARCH91名(3/23現在)。<br>③定期的な面談の他、必要に応じた面談を各担任が行い、生徒の適性や進路希望等を把握し指導した。  | B  | ①生徒への適切な進路指導や大学入試などの進路情報の共有化をさらに進めていく。<br>②国公立大学及び早慶上理の現役合格者数は、目標値をかなり下回った。生徒により高い志を持たせ、難関大学合格を目指す体制づくりを行う。   |  |
| 4      | ・熊女生としての高い品格が求められており、全教職員の共通理解のもと、生活指導の充実を図る必要がある。<br>・適応指導、心のケア等の対応が必要である。<br>・ホームページや学校説明会等を充実させる必要がある。          | ①挨拶指導、身だしなみ指導、完全下校指導等の充実<br>②適応指導、心のケア等の充実<br>③ホームページ・学校説明会等の充実                      | ①全教職員による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を進める。<br>②校内支援委員会を定期的に行い、生徒の情報の共有と職員会議での情報提供、関係機関との連携と協力を努める。<br>③ホームページの更新と充実を努める。<br>③学校説明会・見学会の内容を充実させる。  | ①全教職員による組織的な生活指導に取り組めたか。<br>②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒の対応に取り組めたか。<br>③ホームページや説明会等を通じて本校理解を深め、生徒募集に反映できたか。  | ①生徒指導部・学年連携による登校時の挨拶・身だしなみ指導を、62日間延べ225人で実施。全教職員が協力して19:00完全下校に努めた。生徒の懲戒件数は0。<br>②保健部・学年が連携し、年5回の校内支援委員会と職員研修会を実施、きめ細かい生徒への対応を行った。27回スクールカウンセラーが来校、生徒・保護者のカウンセリング72件を実施(3/23現在)。<br>③月約50回ホームページの更新、最新の情報発信を行うことで、約1100件/月のアクセスがある。<br>③中3生対象の見学会を1月に追加し、小学生保護者対象の説明会を新規に実施した。敷地内に部活動等PR看板10枚(昨年5枚)を設置した。  | A  | ①引き続き全教職員による生徒指導を行っていく。<br>③今後もホームページの充実や魅力ある学校見学会に取り組む。  |  |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価           | 実施日 平成27年2月4日   |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ・オリエンテーション合宿を続けてほしい。<br>・授業が中心であり、行事の精選は必要。<br>・生徒は学習・部活動・委員会活動などで忙しいが、忙しさを克服していくことが自信に繋がる。<br>・進学校でありながら部活動実績も優れている。           |
|                   | ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組などを考慮すると達成度はAでよい。(3人の方から同様の意見を頂いたので、達成度をBからAに変更した。)<br>・SSHは大変だと思うが、2期目も継続してほしい。<br>・熊女の生徒は、一流を目指してほしい。 |
|                   | ・最新の大学入試制度の情報を生徒や保護者へ随時、提供してほしい。<br>・現役志向が強いと思うが、難関大学へ挑戦する生徒を増やしてほしい。<br>・1年キャリア教育では、さくら会が紹介したOGが講師を務め、好評だったようだ。                |
|                   | ・挨拶運動などはPTAも協力できればと思う。<br>・スマホや携帯を適切に活用するには、思考力や判断力を高める必要がある。   |